

## 学校通信~風の人より~

上牧町立上牧第二中学校  
校長 西浦 寛

### 2月は如月（きさらぎ）、寒いはずが・・・。

如月とは、寒さの為に着物を重ねて着込むことから、きさらぎ(衣更月、着更着)と言われています。例年、1月から2月は1年のうちで最も寒い時期のはずですが、今年は暖かい日が多くなっています。過ごしやすく、体を動かすと暑く感じている人もいるのではないのでしょうか。しかし、暖かいからといって油断は禁物です。昼の気温の上昇とは対照的に朝晩は冷え込んでいます。1日の寒暖差が大きければ大きいほど体調を崩しやすくなります。また、1月末頃から、県内のインフルエンザや新型コロナウイルス等の感染者数が再び増加傾向にあるようです。くれぐれも体調管理には注意しましょう。



#### 被災者の想いが伝えていること

元日の夕方に起きた能登半島地震から1か月以上が過ぎましたが、今も被災地では断続的に地震が発生しているなかで復旧活動が日々行われています。被災された地域の方々を助けようと多くの人々が集まり、作業する姿に人の心の温かさや絆を感じずにはられません。そのようななか、被災地の学校では体育館が避難所となり、今も多くの方々がそこの生活を余儀なくされています。メディアを通した被災者の声として「学校は子どものための場所、少しでも早く移動したいが行き先がない。」「学校の再開に向けて、体育施設と避難場所の両立を検討している。」などが聞かれ、すべての学校の機能が完全に元に戻るには、まだまだ時間がかかりそうです。また、みなさんと同年代の子どもたちは「広い体育館がこんなに狭く感じるとは思わなかった。」「ボール遊びをしたいが、迷惑になるのでできない。」と窮屈な思いをしているコメントが伝わってきています。受験勉強をするため親元を離れての集団避難を決めた中学3年生は「今は辛いけど、しっかり勉強して地元の高校に入学し、復興の役に立ちたい。」と力強く決意を語っていました。

みなさんが被災地や被災された方々のためにできることは限られていますが、少なくとも自分の生活を見直し、一日一日を大切にしながら今やるべきことに全力で取り組むことが大事ではないでしょうか。

### 備えあれば憂いなし・・・『行動リスト』の再確認を！

『南海トラフ地震』は30年以内に70～80%の確率で起こると予想されています。能登半島地震以後も国内各地で大小の地震が頻発しており、不安が募りますが、まずは『備え』をしっかりとっておきましょう。みなさんは、これまで防災についてさまざまな学習をしてきました。特に地震対応の防災学習では、試行錯誤しながら改善を繰り返して自主的に行動するための『行動リスト』を作成し、それをもとに避難訓練を実施することができました。以前にクラスで話し合ったことを思い出し、『行動リスト』を再確認して、いつ、どこで地震が起きても命を守る行動がとれるようにしておきましょう。



### 3年生、みんなで乗り越えよう！

3年生のみなさんは、受験シーズンの前半が終わり、既に進路の決まった人もいますね。また、これから公立高校(一般選抜)の受検を控え、最後の追い込みに必死で取り組んでいる人も大勢いるでしょう。こんなときこそ、みなさんがこれまで培ってきたクラスや学年の団結力を発揮し、互いを励まし合い、みんなで乗り越えていってほしいと強く願っています。

人生を山登りに例えると、今は、ある一つの山を登り終えた人と登っている途中の人になるのでしょうか。時期は人により多少違うものの登り坂はいずれ、一旦は平坦な道に戻り、またある時期が来れば違う山を登ることになるでしょう。そう考えると登ったり、下ったり、立ち止まったり、引き返したりしながら進むことに変わりはないのです。このみなさんの各々が進む道と一緒に歩んでくれる人や応援してくれる人がいれば、より心強いものですね。

#### 保護者のみなさまへ

今年は暖冬とはいっても、寒暖差が激しく、体調管理の難しい日が続いています。早いもので来月には卒業式、修了式を迎えます。今年度も残り少ないですが、有終の美が飾れますよう、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。インフルエンザや新型コロナウイルス等の感染症につきましても、引き続きご家庭での予防対策をよろしくお願いいたします。